

日野町議会と養父市議会 合同研修会 会議記録

I 日 時 令和8年3月30日（月）

午前11時00分～

II 場 所 兵庫県立但馬長寿の郷 第3・4研修室

III 出席・欠席委員等

〈日野町議会議員〉 13人出席（欠席1人）

役職名	氏名	役職名	氏名
議 長	杉浦 和人	議 員	柚木記久雄
副 議 長	野矢 貴之	議 員	川東 昭男
議会力向上特別 委員会委員長	山本 秀喜	議 員	高橋源三郎
議会力向上特別 委員会副委員長	谷口 智哉	議 員	後藤 勇樹（欠席）
議 員	錦戸 由佳	議 員	加藤 和幸
議 員	福永 晃仁	議 員	中西 佳子
議 員	松田 洋子	議 員	西澤 正治

〈養父市議会議員〉 15人出席（欠席1人）

役職名	氏名	役職名	氏名
議 長	谷垣 満	議 員	淨慶 耕造
副 議 長 (議会改革推進特 別委員会委員長)	深澤 巧	議 員	西垣 司
議会改革推進特別 委員会副委員長	西田 雄一（欠席）	議 員	藤原 芳巳
議 員	西垣 勲一	議 員	高橋 展子
議 員	川瀬 稔	議 員	津崎 和男
議 員	田路 之雄	議 員	塚本 正彦
議 員	北山 愛	議 員	石本 毅
議 員	前田 稔	議 員	井戸 弘美

〈日野町議会事務局〉 2人

役職名	氏名	役職名	氏名
事務局長	園城 久志	書 記	藤澤絵里菜

〈養父市議会事務局〉 3人

役職名	氏名	役職名	氏名
事務局長	井上 隆司	参 事	石田 恵美
次 長	安達 一郎		

IV 配付資料

- ・日野町議会と養父市議会 合同研修会 次第

- ・養父市議会改革の取組（養父市議会）
- ・議会力向上特別委員会の取組（日野町議会）
- ・グループワークについて

V 議事進行

1 開 会

【養父市議会運営委員会 委員長 西垣 司】 省略

2 あいさつ

【養父市議会議長 谷垣 満】 省略

【日野町議会議長 杉浦 和人】 省略

3 議会の取組報告

（１）「議会改革推進特別委員会の取組について」

報告者 養父市議会改革推進特別委員会 委員長 深澤 巧

【要旨】

平成の大合併から３期目の平成20年11月、定数が18名の時に議会基本条例制定特別委員会を設置。委員８名のうち新人は私を含めて３人入った。

議会基本条例を作る前に議会報告会をやるということで大阪の熊取町まで勉強に行き、初めて開催、旧４町、４カ所で行い、270名の参加だった。全く初めての試みで、針のむしろの上に座っているようだった。ちょうどその時、副市長の選任に議会が反対したという大きな問題もあり、非常に緊張感があつたのを覚えている。その後第28回まで続けてきた。

議会基本条例制定特別委員会は、いろいろな市民団体や市民10何名を参考人として招くなどして進め、議会基本条例を制定、兵庫県下では２番目に早かった。ちなみに議会報告会は兵庫県では一番早かった。

その基本条例を制定する３月定例会の前に市内のホールで江藤俊昭先生を招き、市民パネラーをお呼びして、基本条例の内容を説明するフォーラムを行った。300人入れる会場で、一部の議員が立ち見になるほど大きな反響をいただいた。議会に対して市民が大きな関心を持っているのではという手応えを感じたことを鮮明に覚えている。

それと前後して、地元紙の神戸新聞社説で取組が紹介されることになった。養父市議会の取組が社説に取り上げられるようなことは、おそらくそれまでなかったと思う。基本条例を手作りで作ろうということで23の条分を全部２、３人のグループに分けて自分で素案を書いてもらい、それを委員会で叩いて叩いて作るということで、１つずつ議員同士で議論し、修正を繰り返し、調査委員会は30回近くになった。

その議会基本条例のもとで、これまでに議会報告会を行ったり、議会モニターの制度を作ったり、政治倫理条例や報酬条例等を作ったり、あるいは定数や報酬の考え方について市民参加の合同研修会を２回にわたって開催、早稲田大学の中村先生等も来ていただいた。また、市内の３つの高校、普通高校、農業高校、通信制高校で意見交換会を年１回、最近ではグループワークを行っている。また、タブレットの導入や図書室のリニューアル、ＢＣＰ計画など、一連の取組を行ってきた。議員定数と報酬は議員自らで決めると議会基本条例で謳っているのもので、特別委員会を設置したり、市民の意見を聞いたりしている。最近で

は、議員は調査研究すべしということで政務活動費を増額、まだ他市に比べると少ないかもしれないが年額12万円まで改定している。

議会基本条例策定から16年。条文では評価検証を行い必要に応じて措置を取ることを定めているが、この間、個別の案件には対応したものの、評価検証ができていなかった。16年経つと議会も変わり、議員の質も変わり、市民の受け止め方も違う。制定当時の熱量をどう持っていくか、出していくかが大きな課題になる。今期の議会では議会改革推進特別委員会を設置し、1年半かけて基本条例の逐条検証を行い、その中で出てきたことについて試行的に取り組を行っている。

市民との合同研修会は、議会基本条例とこれからの地方議会という少し堅いテーマで、議会モニターと一般市民も参加して去年の夏に行った。子育て世代とのオンライン懇談会は、議会報告会の出席者が固定化しているため、子育て世代の参加をとの意見で、夜8時からオンラインで実施し、PTA・保護者会関係者、一般参加者19名が参加した。また、昨年小学生が非常に詳しい傍聴の感想文を書いてくれたことに刺激を受け、小学校等にも出前講義を行うということで、今、手作りで「それいけ養父市議会 君たちがヒーロー」というテキストを作成している。

議会というのは代を重ねても基本条例の理念や今までの取組を継承していかなければ途切れてしまう。そのためには不断の努力、絶え間ない取組を常に行っていかなければならない。今期の議会改革推進特別委員会でこれから目指すことは、政策提言を実現できる議会にしていくこと。まだ仮称だが「過疎地域小規模集落振興条例」を議会自らの手で作るということで、会派を越えてプロジェクトチームを作り、地域に向かい話を聞きながら活動している。

常任委員会についても権能強化できる仕組みを作っていきたい。議会報告会等も発展的に継承し、様々な方法も試してみたい。議員の担い手の確保の面では、定数と報酬は避けて通れない問題。養父市議会は4年に1度はこのことについて検証すると決めているので、今期の後半、これから2年半ほど議会改革の中に位置づけて検討していきたい。

最後に、養父市の基本条例を16年前に作ったが、新人のメンバーで第4条を担当した。

「議員は直接選挙で選ばれた市民全体の代表」、「議員は市民の多様な意見と実態を的確に把握するとともに、市民の目線で活動し、議会の活性化に努めます。」、「議員は、常に学習、調査研究等を行い、資質向上を目指し、自らの意見と主張を広く市民に伝え、住民自治の実現のために活動します。」としている。先輩からのアドバイスもあったが、このことを新人の一期生の議員で作れたというのは財産になっているし、結局こういう活動をしていくことが議会力を上げていくことになると思う。特に今日の合同研修会は大切な機会。今日の機会が、議員の責任と役割を今後とも伝えていく一里塚となることを期待している。

【質疑応答】

谷口副委員長（日野町）

高校生との意見交換会、特にホームページでも目を引くところだと思ったが、その後の行政側への働きかけやアウトプットはどうしているか。また、意見交換会に参加した高校生に対するフィードバックは。

深澤委員長（養父市）

実際、高校生と忌憚なく面と向かって話す機会を持つことは非常に刺激的であった。最初の頃は何か要望はと聞いたら都会に遊びに行くのにバス代を安くとか、そういう話だったが、続けていく中で、例えばＪＲの駅の駐輪場ができてないと聞いた時には、その場で学校の先生に今何人自転車通学されているか確認し、それなら必要じゃないかという話にすぐになり、急遽補正予算で駅の前にできたということがあった。やはり通学路の問題、遠距離通学というような生の声を聞けるということは大事な成果になっていると思う。意見交換会後には報告書を作って公開するということを行っている。

杉浦議長（日野町）

平成23年の日野町の基本条例制定の時に反問権について議論があり、そのほうが議論が活性化するのではないかという話があった。今回日野町議会でも、質問するだけでなく、考えをしっかりと当局に伝えられるように反問権をやってみようということで6月議会を目前に考えている。今の報告で反問権の件が書かれてなかったが、何か意図があったか。

深澤委員長（養父市）

制定当時に反問権を入れるかどうかという議論はあった。反問されたら、市長から予算や財源をどうするということと言われ、收拾がつかないのではないかということがあり、養父市議会では、議員の質問等に対して論点を分かりやすくするために問い質すことができるとした。何回か議場でも実行されている。今言われたようなことも踏まえ、今期の議会改革推進特別委員会では、反問権あるいは反論権について、どう位置付けるかという議論を行い、資料を整理したので、条例の実際の改正等については今後の1つの大きなテーマとして残している。市長側が強気に出られたら困るというような消極的な意見ではなく、議員がしっかり根拠を持って質問の場に立つという意味で、議員の質問力を上げるためにこういう規定を作った方がいいという意見も出ている。日野町とも意見交換をさせていただきたい。

（２）「議会力向上特別委員会の取組について」

報告者 日野町議会力向上特別委員会 委員長 山本 秀喜

【要旨】

ここ数年で、急激に議会改革への思いが議員の中で強くなってきた。今期になって若手議員が入ってきたので、一気に進めていくことになっていった。住民から信頼される議会にしていくことが大事ということが、議員の意識の中に入ってきた。

議員のなり手不足について、日野町議会は定員14名にしているが、前回の選挙の時も16ないしは17で、選挙にはかろうじてなった。もっと町のことを考えてくれる議員さんが増えていかなければいけないという思いがあり、問題点の1つとして取組を進めている。1つ目は、議員のやりがい高めようという取組で、一般質問の質の向上のために事前の勉強会や振り返りをしている。常任委員会でも、議員間討議を積極的にやるという取組もしている。2つ目は住民の関心を高める広報の取組。次に環境整備、令和7年3月にサイドボックス、タブレット導入している。議員報酬の改善、27年ぶりに改正ということで、令和5年、6年の議会改革特別委員会のプロジェクトの1つとして議員報酬の改善を行い、そこで決めて報酬審議会でも説明、改定に至っている。しかしながら、まだまだ適正な議員

報酬には至っていないなということで、さらなる改善を目指し、令和8年にはもう一度報酬審議会に提言していこうと取り組んでいる。

議員定数は日野町も議論を行い、議会改革、常任委員会で調査研究が必要、住民との意見交換も必要でこれ以上減らすことはノーという結論を出した。現在は女性議員を増やすということで、まずは女性議員が働きやすい環境が必要ということで課題を抽出、これは議会力向上特別委員会で進めている。

広報・広聴の取組は急速に進んできている。中身をよく知ってもらいたいという思いが強くなり、議会だよりが分かりやすく、読みやすく、親しみやすく、ずいぶん変わったと思う。内容が住民にとってわかりやすく変化しているので、そこをグループワークで意見交換してほしい。議員の紹介コーナーや、デジタルサイネージで議会活動の紹介コーナーを作って、来られた方に議員や議会活動を知ってもらうということを進めている。小学校6年生の議場見学はもう何年も続いていて、各小学校と議会がタイアップできてきているという印象を持っている。日野町議会の70周年記念事業で「ギカイへ行こう！」を実施、大変多くの方に来場いただいた。親しみやすさを持って来ていただいているなという印象を持っている。

議会報告会は意見交換会という形に変わってきている。日野町では各常任委員会が関連するところと意見交換。総務常任委員会では20歳のつどい実行委員との意見交換会、消防隊や公民館の運営のほうなど進めている。産業建設委員会では農業委員会、厚生常任委員会では社会福祉協議会など、関連するところと意見交換を進めている。そこでいただいた意見の中から一般質問に取り入れたりという形での改善に努めている。過去には女性を対象にした意見交換会なども。学校教育とのコラボで、ふるさと学習の中でプレゼン資料を作ってもらい、議員や町職員さんに聞いてもらうという取組をされている。議員が学校に聞きに行ったり、議会へ来てもらったりということで、地域振興の中にも取り入れて、「こんなまちになったらいいな」という子どもたちの思いを政策にできたらと思っている。今後、地域振興対策をテーマとして意見交換会を進めようと考えている。

政策提言への取組は、直近では令和5年4月に提言をしている。「一人一人が輝き持続可能で誰もが元気に暮らせるまち”日野”に」ということで、ホームページにも入っている。今進めていることは政策立案していくための勉強会。令和7年から3カ月に一度、外部の先生に来てもらい勉強会をしている。これまで4つのテーマに絞って進めている。政策評価、事業評価の取組については、予算決算特別委員会の決算で政策、主要施策の成果などによる審査、決算と政策の検証を取り入れようとしたがうまく機能しなかったもので、課題として残っている。今、予算決算に活用できる事業評価シートについて、もっと分かりやすいシートの導入検討を進めている。

議会基本条例に関しては、養父市は条例の制定に重きを置いておられる、そこが根底にあるというのを今回勉強させていただいた。日野町は早くから作って以降4回改正したが、近年は見直しができていないので、着手が必要との思いがある。政治倫理条例の検証見直しも進めている。BCPはこの3月定例会で見直しを進めた。

「これからの地方議会」については、杉浦議長からも信頼される、愛される議会になっていかないとということを口に出されており、我々もそういう思いを持っている。質問力、発言力を高めていこうということで、通年議会制も入れ、委員会活動を活性化させるということ。養父市を見習わないと思っているが、デジタル化でオンラインの出席、議事録

の作成をしようと進めている。小学生から日野の未来の提案を受けているので、それを具体化していく政策立案も大事。我々が市民や小学生の意見を聞き、それが政策に結びつけられるような議会にならないといけないということで進めているところ。

【質疑応答】

石本議員（養父市）

意見交換を重視される方向とのことだったが、意見交換をうまくやっていくために気をつけていっていることは。ルールの問題、技術的な問題、能力の問題など。

山本委員長（日野町）

グループワークに重きを置いているということ。今日のように模造紙を広げて付箋で貼って、テーマに対して出された意見を政策提言につなげるような取組が非常に重要視されるのではないかと。広報・広聴は、それはそれでやらざるを得ないが、どちらかということからは政策提言に重きを置く、意見交換が大事だという思いに至ってきた。

高橋議員（養父市）

令和7年6月1日から通年議会制をされていると聞いた。もうすぐ1年になるが、何か大きく変わったようなことはあるか。

山本委員長（日野町）

大きく変わってきたと思っている。委員会が活性化している。通年議会を導入したからということでもないかもしれないが、みんなの意識がぐっと変わりつつある中で通年議会を同時に入れたので、いろいろうまく自転車が回っている、そういう感じではないか。常任委員会がより活性化し、市民にも普段から動いているということを知らせるための1つの手だと思った。

（昼食懇談会）12：00～13：00

4 意見交換会

（1）グループワーク

（2）グループ発表

別紙のとおり

（3）講評

【要旨】

・谷垣議長

グループ1の担い手確保については、報酬の件や、時代変化への対応などもあるが、若者が羨ましがするような議員になるべきという議員独自の立場での意見、議員が本当に頑張っている、やりがいを持って議員を務めているということが議会の存在感を示すことにもなり、発信の機会にもなる、主権者教育にもなるということが一番大きいと思う。議員力

を上げることも議員のやりがいが高めるために必要。議会での発言や議会活動を通じて市民の困りごとに応じて何か制度を変えたという成功体験や成果が出ることによって、議員もそれがやりがいになって、次につながる。そういう議員が増えていくほど、若者から興味や関心を持たれ、住民からの関心も持たれて羨ましがられるような議員というのは成り立っていくのではないか。一般的な不要論も真摯に受け止めるということはあるが、やはり我々がそれを形で、行動で示していくというのは重要、それが成り手確保のために議員としてできることと感じた。

グループ2の広報・広聴について、すばらしい議会だよりを作られていると思う。小さなこだわり、創意工夫、読みやすさ、興味を持たれるような創意工夫もしっかりあった中で、議員がわが町のレジェンドや議員の行動、本の紹介をしたり、議会だよりについてアンケートをとって、それに回答していったり、議会の動き、審議で出たものの後追いをしっかりして、それを審議にフィードバックさせているということも重要なことだと思う。ページ数、内容も創意工夫がすごくみられるが、議員が住民の方に直接出向いて、接触を持って、興味関心を得ていっているのがよく伝わる。住民が見たら「議会頑張ってるな」と感じられる議会だよりだと感じた。

グループ3の政策提言については、養父市の集落持続化研究会の取組を紹介した。これも養父市議会でも初めての試みで、手弁当と言うか、自らそこに手を挙げて、それに参加するという活動というのは他にもなかなかないので、自慢できる取組。その元となっているのは、やはり議会も政策提言をしていこう、監視だけでなくしっかりこちらからの提言につなげたいという、これからの議会の中で何が必要かと考えたときに一段高いレベルでの地方議会の役割を果たしていこうという意思の表れとして紹介いただいた。

我々のグループ4では話の中で、メール、インターネットもあるし、情報提供も多くされているが、やはり市民が行政に言うところがない、どこに行ったらわからないという方も必ずおられ、そういった方々にどうコミットできるかというのは、やはり議会しかないなという話が出ていた。これも本当に重要だということで、情報が手に入れやすくなっているが、それでも情報が伝わらない、窮状が伝えられない住民もあるということに気づいていくのが議会の仕事であろうと。困りごとを話した時に、こういう制度がありますよ、こういう仕組みですよ、そういうのはないんですよっていうことを伝えるのは行政の仕事、しかし、その困りごとの話を聞いて、じゃあどうしたらいいかと一緒に考えて、さらにそれを提案して変えられるというのも議会しかできない仕事、議員の仕事だろうということがあった。最終的にはその住民が、議会から、行政からも離れていくということが一番怖い。地方議会において、これから一緒に何かを成し遂げるにしても、住民の方々の当事者意識、共同の意識、一緒に頑張っていこうという信頼関係をしっかり作った上で協働を求めていくというのが、これからの地方議会で求められているのではないかと、その橋渡し役をするのが地方議会の議員であるということを気づかせていただいた。今日全部紹介はできないが、これから一緒に共に議会改革を進めていく中で勉強させていただけたら。

・杉浦議長

なり手不足の問題については市と町との違いは当然あると思う。全国 926 町村の 3 割が無投票、23 が定員割れという状況。そこにおける報酬問題、議員の魅力、そういうものが問われ、市と町村との違いというのは確かにあるかと思っている。幸い日野町議会は今期 18 期には若い方が入っていただき、少しずつではあるが活気が出てきたという評価をいただいている。議員の報酬も、全国町村議長会では首長の 47% を目指している。首長の 47% というと日野町の場合は今現在 26 万 4,000 円だが 35 万円ぐらいを目指している。養父市も今 31 万だが、もっとさらに、40 万円ぐらいになるので目指してほしい。議員としてのやりがいがあるかどうかという話、やはり若い方が魅力を感じられるような、議員の一人一人が資質の向上が大切だと思う。あれが本当に日野町の議会の議員か、あるいは養父市の議員か、そういうふうにならなくても見られる節があるので、やはり「あ、議員ってすばらしいな」という、若い人の支持を高めていくということが大事と思っている。

議会の広報の関係で、議会だよりで実は珍しく議長コラムというのを日野町は出させていただいている。他の市町の議会だよりを見てもほぼない。しかし、同じ 14 人議員がいて、議長だけは何も言えない、これもいかなものかということで、機会をいただいて議長コラムを書かせていただいている。しかし、この議会だよりも「見せる議会」なので、何か自分の PR だけ、自分の振り返りだけをしているという、そういうものではあってはいけない。やはり資質の向上、議員の能力がやっぱり質問力に変わってきているというふうに住民に理解していただき、僕が思っていること、私が思っていることをきちんと質問していただいているなど、担い手不足でも、若い世代から「自分もそこへ出て、こういうことやってみようかな」と、そんなことを感じていただける方があるのではと思っている。

政策提言の話だが、議会は二代表制で監視機能を高めるというのがまず大事、そのために自分の能力を高めることが原則、そしてその問題から、将来このまちがどういう行く末を持っているのか、まちの力、まちづくりになっているのかどうか、そういうことを見据えるために、しっかりと議会として提言をしていく、政策を提案していく、これが先ほどの反問権ではないが、「そう思うけども、こうじゃないの？」というそういう政策提言ができていくということが大事。今日もこういう研修をしているので、そういう勉強をしていければと思っている。

議会基本条例の話は冒頭にも話させていただいたが、平成 23 年に制定させていただいている。当時、全国 950 ぐらいの町村の中で 52 番目ぐらいだったと思う。養父市は兵庫県の中でも 1 番、2 番目に議会基本条例を制定されているが、議会が基本条例に沿っているか、そのように活動しているかどうか、そこを見直したかどうか、そのことをみんなが検証しているかということを考えていく必要があるのではないか。例えば、除雪が大変、車道は町がするけれど歩道はしないと、住民の方から言われる。困っている。当局に行ってもなかなかしない。そうしたら当初予算が編成された時にこの予算が除雪の雪寒対策に含まれているのかどうか、含まれていなかったら住民の方、通学者、通行者が不便するこの問題をどう解決するのかと質す、これはこういうふうにしますと答弁が返ってくる、次の決算

委員会でその通りされているのかどうか、これがされていなければ決算認定、不認定にするぞと、それは我々議会の権利。そのぐらい意欲、意思を持ってやっていただく。それがやはり当局に対する我々議会の役目、そのぐらいやるということが大事だと思っている。

5 閉会

【日野町議会力向上特別委員会 副委員長 谷口 智哉】 省略